

桜川市が

第15回優秀観光地づくり賞「金賞総務大臣賞」受賞

茨城県初の「金賞総務大臣賞」を受賞

社団法人日本観光協会が主催する第15回「優秀観光地づくり賞」(後援/国土交通省、総務省)で、桜川市が県内初受賞となる、最高位の「優秀観光地づくり賞 金賞総務大臣賞」を受賞しました。

この賞は、観光による地域振興を積極的かつ効果的に推進し、他の地域の参考になるような観光地づくりの成果を生み出している団体などを表彰し、各地における良き観光地づくりがさらに推進されることを目的に平成6年に創設されました。



横浜市のパシフィコ横浜で開催された第15回「優秀観光地づくり賞」表彰式で「金賞総務大臣賞」を受賞する中田市長(写真右から3人目)

市民の皆様様のまちづくり活動を行政が支える

桜川市の取り組みは、地場産業の石材を活かして石燈籠を灯す「まかべ夜祭」を行うなど地域にあった観光地づくりを行い、また「真壁のひなまつり」など、まちを思う市民の皆様による主体的な取り組みを受け、街並みに配慮した駐車場やトイレの設置、電柱の地中化計画の推進など「市民の皆様様のまちづくり活動を行政が支える」よいお手本として高く評価されました。

過去の金賞受賞地は、小布施町(長野県)、遠野市(岩手県)、塩原町(栃木県)、高山市(岐阜県)、小樽市(北海道)、佐原市(千葉県)、などがあります。



桜川市の観光地づくりで中心となった、まちづくり真壁(川島利弘会長/写真左側、真壁商工会(西岡延廣会長/写真右から2人目)、真壁商店会連合会(増田廣会長/写真右側)と中田市長(写真左から2人目)

いきいき駅サイトと

たかもり おおが 高森地区のみなさんが大賀ハス(古代ハス)を植栽

JR大和駅に隣接する弁天池で地元高森地区のまちづくり団体「いきいき駅サイト」と同地区のみなさんが、中田市長(写真前列中央)と大賀ハスの植栽を行いました。



地域の自然資源をまちづくりに活用

JR大和駅に隣接する弁天池(高森地区)で大賀ハスの記念植栽が行われました。この記念植栽は、自然豊かな地域づくり運動の一環として、大和駅を活用したまちづくり活動を展開している地元団体の「いきいき駅サイト」が中心となって開催したものです。

「地域に古くからある弁天池を大切な自然資源として活用していこう」という、いきいき駅サイトの呼びかけがきっかけとなって、ハスの発芽実験が始まりました。昨年

水が抜かれた弁天池で大賀ハスの植栽をする、高森地区の高松区長(写真右)と中田市長(写真左)



は約1,200個のハスの苗を弁天池などに植えました。が、残念ながら育ちませんでした。

このようなことから、今年には東京大学の緑地植物実験所から17本のハスの根を分けていただき、地元子供会を中心に約40人の方が参加して、大賀ハスの根を一つ一つ丁寧に植えていきました。

ハスの花は、7月8月にかけて開花する予定です。植えて2年目が良く咲くそうですが、早いものであれば今年に花を咲かせて人々の目を楽しませてくれることでしょう。

※大賀ハス(背景写真)/昭和26年に植物学者の故大賀一郎博士が千葉県千葉市にある東京大学検見川(現・東京大学検見川総合運動場)の落合遺跡で発見。これが世界最古のハスの種子と認定され、翌年そのうちの1粒が発芽し、2000年前のハスの花として話題を集めました。